

「650 のプログラム教程 臨床解剖学へのアプローチ」

名古屋大学教授・解剖学 酒 井 恒 著

神戸大学教授・解剖学

山 鳥 崇

膨大な解剖学の情報をいかに最小限のものにまとめるかということは、常に古くて新しい難題である。今回医学書院から出版された酒井恒教授著「臨床解剖学へのアプローチ」は、この問題の1つの解決例と言えよう。111頁にわたる図と650の問題と解答という方式を用いて、この本は骨学から神経解剖学にいたる系統解剖学の知識を、索引を除くA5判237頁の中にまとめきっている。まさに解剖学的知識の minimum requirements を示す1例であろう。

著者が述べられているとおり、これだけの内容は、医療技術短期大学(学部)、保健学部、看護学部などの学生にとっては必要十分なものであると思う。しかし医学部の学生にとっては、あくまで最低限知っておかねばならない解剖学的知識を示すものであって、これ以上のものが要求されることは言うまでもない。ただこの本は、医学部の学生にとってもQ&A方式で、説明図を楽しみながら、基礎知識を整理するのに、手

ごろなものではないか、と思われる。

通読して印象的なものは、見開きの左の頁を埋める美しい、色刷りの、明快な説明図である。やや彩色が不適切ではないかと思えるものがあるが、概して構造物の色分けは解剖学的慣例に従って正確になされており、見る目に美しい。これらの図を見ているだけでも、解剖学を楽しく学べるように思われる。これらの図を眺めているうちに、自ずから問題に対する解答が導き出せ、種々の構造が理解できるように、工夫が凝らされている。けだしこれらのイラストは、この本の生命ともいえるべきものなのであろう。

解剖学用語(和名, ラテン名)は日本解剖学会編「解剖学用語 改訂12版」に拠っていて、正確である。これらの和名, ラテン名に加えて、英名も用いられている。近年英名の使用頻度が増える傾向にあることから考えると、これはむしろ当然の読者向けサービスと言えるであろう。図を見やすくするための配慮からか、

その説明は和名のみで、3種の学名は各頁の欄外にまとめられている。またこれら3種の学名による索引が個別に整理されているうえ、和名の索引は日, ラ, 英名の対照表を兼ねていて、学名辞典としても使えるようになっている。

著者はQ&Aによる説明のみでは不十分と考えて、随所に“NOTE”という欄を設けて、足りない所を補っておられる。基本的な知識や用語の説明として、この欄は生きている。ただ「臨床解剖学へのアプローチ」というタイトルからみて、随所に工夫が凝らされてはいるものの、各構造物や部位の臨床的意義の説明が十分になされているとは言い難い。次の版ではもう少し臨床的意義に関する記載の加わることが望まれる。それによってこの本は、より本来の目的にそった、完全なものになる、と考えられるからである。

● A5 348頁 色図260 1991
定価5,356円(税込) 円300

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)